TD61-8132

Edgecore Networks 社 EWS コントローラ

コンフィグレーションガイド

APRESIA Systems 株式会社

制 定 ・ 改 訂 来 歴 表

No.	年　　月　　日	内　　容
－	2023 年 2 月 22 日	新規作成

目次

⚠ 安全にお取り扱いいただくために

⚠ 安全に関する共通的な注意事項

下記に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、本書内の指示、手順に従って行ってください。
- 本製品や本書に表示されている注意事項は必ず守ってください。これを怠ると、人身上の傷害や本製品の破損を引き起こす恐れがあります。
- 本書に記載されている以外の操作や動作は行わないでください。
- 本製品や本書に記載されている内容について何か問題がある場合は、お買い求め先にご連絡ください。
- 本製品や本書に表示されている注意事項は、十分に検討されたものでありますが、それでも、予測を越えた事態が起こることが考えられます。作業にあたっては、単に指示に従うだけでなく常に自分自身でも注意するようにしてください。
- 安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって示されます。これは「警告」および「注意」という見出し語と注意シンボルを組み合わせたものです。

⚠ 警告	死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用いられます
⚠ 注意	軽度の傷害、あるいは本装置の重大な損傷を引き起こす恐れのある潜在的な危険の存在を示すのに用いられます。
⚠	この注意シンボルは見出し語などと共に用いられ、そこに記述されている事柄が安全に関するものであることを示し、注目させる為に用いられます。
❗	この注意シンボルは見出し語などと共に用いられ、そこに記述されている事柄が人身の安全と直接関係しない留意事項を示すのに用いられます。

1. はじめに

1.1 本書の位置づけ

本書は、表 1-1 に記載している機種、ソフトウェアバージョンに基づいて解説しています。

表 1-1 本書適用の機種一覧

No.	製品シリーズ	製品型式	ソフトウェアバージョン
1	EWS コントローラ	EWS101	3.70.0000
2	EWS コントローラ	EWS5203	3.70.0000
3	Wi-Fi5 アクセスポイント	ECW5211-L	3.45
4	Wi-Fi6 アクセスポイント	EAP101	12.2.0

EWS コントローラを使用される際は、アクセスポイントと共に最新バージョンにアップグレードしてお使いください。
ファームウエアは、弊社以下サイトからダウンロード可能です。
https://www.apresia.jp/products/wireless/support/download-fw.html

1.2 マニュアル分類

表 1-2 にマニュアルの分類を記載します。

表 1-2 マニュアル分類

名称	概要
EWS コントローラユーザーマニュアル	各設定に対する全般的な説明*1
EWS コントローラ コンフィグレーションガイド(本書)	マニュアルには書かれていない点について補足説明

*1：弊社以下サイトからダウンロード可能です。
https://www.apresia.jp/products/wireless/support/download.html#ews101

2. EWS コントローラの初期設定

EWS コントローラを動作させるための最小限の設定について解説します。

2.1 EWS コントローラへの接続

設定用 PC を EWS コントローラの LAN ポートに接続します。
LAN ポートに接続すると DHCP より 192.168.1.XXX/24 のアドレスが払い出されます。
EWS コントローラの LAN ポートの初期設定 IP アドレスは、192.168.1.254 です。
ブラウザにて、192.168.1.254 にアクセスし、WEB GUI 画面を表示して下さい。
下の接続図では 192.168.1.100/24 に設定しています。

2.2 WAN インターフェース設定

WAN インターフェースに固定 IP アドレスを設定します。
(1) 「SYSTEM」→ 「WAN」をクリック。
(2) 「インターフェース」の欄の「固定」を選択し、以下の項目を設定します。
「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「優先 DNS サーバ」
(3) ページ下部にある「Apply」をクリック。

図 2-1 WAN1 設定

2.3 一般設定

EWS コントローラのシステム設定を行います。

(1) 「SYSTEM」をクリックし、「一般設定」を表示します。

(2) 「システム名」を設定します。

図 2-2 一般設定

(3) タイムゾーンのプルダウンメニューより「(GMT+09:00)Osaka, Sapporo, Tokyo」を選択します。

必要に応じて NTP サーバーを指定して下さい。

「コントローラを NTP サーバとして使用」を有効にします。

ページ下部の「Apply」をクリックします。

図 2-3 システム時刻

(4) 「管理 IP アドレス」の「設定」ボタンをクリックします。

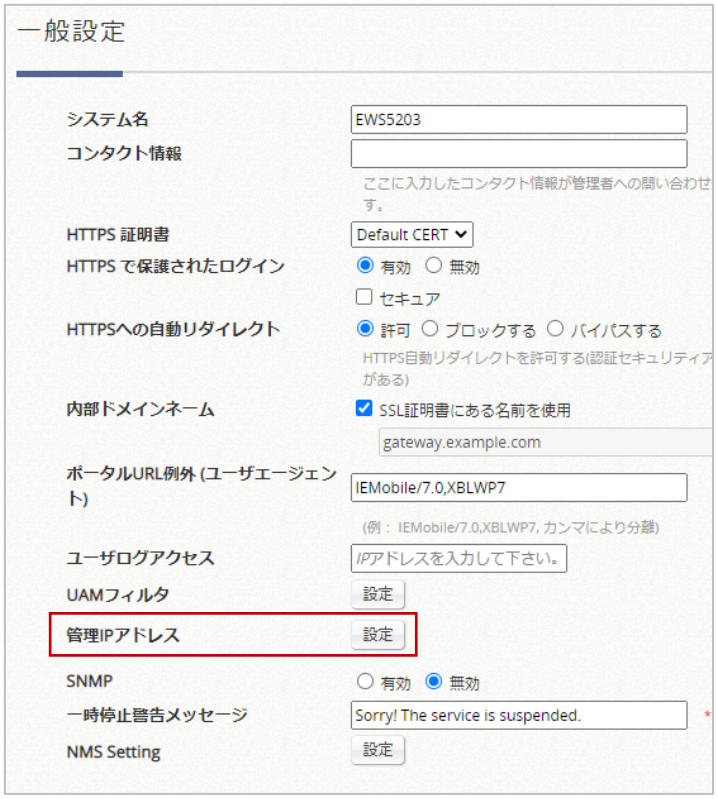

図 2-4 管理 IP アドレスのメニュー

(5) 管理 IP アドレスリストで、「0.0.0.0/0.0.0.0」をチェックします。管理 IP アドレスリストは、外部より管理 GUI にアクセスできるソース IP アドレスのレンジです。「0.0.0.0/0.0.0.0」は、すべてのアドレスからアクセス可能な設定となります。

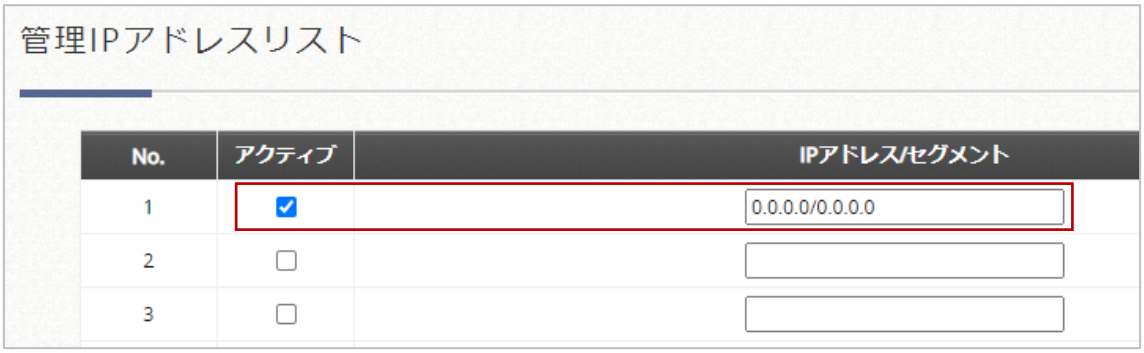

図 2-5 管理 IP アドレスリスト

(6) ページ下部の「Apply」をクリックします。

(7) 画面上部のメッセージ内の「再起動」をクリックし、設定を適用します。

図 2-6 再起動メッセージ

(8) 「Apply」をクリックし、再起動を実施します。

図 2-7 再起動の画面

(9) 再起動後、WAN ポートに指定した固定 IP アドレスでアクセスできることを確認して下さい。

3. アクセスポイントへの設定適用

EWS コントローラから、アクセスポイントに対し、一括して設定を適用する方法について解説します。

3.1 ワイドエリア管理の有効化

EWS コントローラで AP を管理するには、ワイドエリア AP 管理を有効にします。

(1) 「DEVICE」をクリックし、デバイス管理を表示します。
ワイドエリア AP 管理の「無効」のリンクをクリックします。

図 3-1 デバイス管理

(2) ワイドエリア AP 管理を「有効」にし、「Apply」をクリックします。

図 3-2 ワイドエリア AP 管理

(3) ワイドエリア AP 管理の「Enter」ボタンをクリックし、AP リストの画面を表示します。

図 3-3 デバイス管理

3.2 アクセスポイントの登録

(1) AP リストより「追加」をクリックします。

図 3-4 AP リスト

(2) 追加方法のプルダウンメニューで「複数 AP」を選択し、デバイスの種類で、アクセスポイントの機種を選択します。アクセスポイントの IP アドレスが入るよう、「開始 IP アドレス」と、「終了 IP アドレス」を指定します。アクセスポイントの「ログイン ID」と「パスワード」を入力します。スキャンをクリックすると、アクセスポイントの検出が開始されます。10 アドレススキャンするのに、約 30 秒かかります。

図 3-5 複数 AP 検索

(3) スキャンが完了すると、検知したアクセスポイントが表示されますので、デバイス名を変更し、チェックボックスにチェックを入れ、「追加」をクリックします。

図 3-6 検出された AP

(4) 追加が完了すると、AP リストにアクセスポイントが登録されます。

図 3-7 AP リスト

3.3 テンプレートの作成

アクセスポイントに設定を適用するには、設定のひな型となるテンプレートを作成します。

(1) 「デバイス」-「ワイドエリア管理」-「テンプレート」をクリックするとテンプレートの設定が表示されます。

図 3-8 テンプレート AP 設定

(2) 機種を選択では、EAP101, EAP102 では、「New Generation」を選択し、ECW5211-L では、「Legacy」を選択します。

図 3-9 機種を選択のメニュー

(3) 国では、「Japan」を選択します。

図 3-10 国選択メニュー

(4) 「Radio」の「設定」ボタンをクリックします。

図 3-11 Radio 設定ボタン

(5) 無線設定を変更します。

「無線」では、5Ghz，2.4Ghz を切り替える事で、設定画面が切り替わります。

「802.11 モード」では、使用する無線規格を選択します。

「チャネル帯域幅」では、使用する帯域幅を選択します。

「チャネル」は、「Auto」を選択すると、アクセスポイント起動時に、チャネルが自動設定されます。

「送信パワー」で、送信パワーを選択します。最後に「Apply」をクリックします。

図 3-12 無線設定画面

(6) 「無線ネットワーク」の「設定」ボタンをクリックします。

図 3-13 無線ネットワーク設定ボタン

(7) 無線ネットワーク設定を変更します。

「無線」では、5Ghz，2.4Ghz を切り替える事で、設定画面が切り替わります。

「VAP」では、追加をクリックすると、SSID を増やすことが可能です。

「SSID」では、SSID を指定します。

「セキュリティタイプ」では、WPA2-PSK で、WPA2-Personal になります。

「キー」には、無線接続時のキーを指定します。

図 3-14 無線ネットワーク設定画面

(8) ネットワークモードは、「ブリッジモード」を選択します。

「CAPWAP トンネルインターフェース」は、「無効」を選択します。

「Apply」を押し、設定を保存します。

図 3-15 無線ネットワークの設定

(9) 「User Accounts」の「設定」ボタンをクリックします。

図 3-16 User Accounts 設定ボタン

(10)アクセスポイントの管理者のパスワードを再設定し、Apply をクリックします。

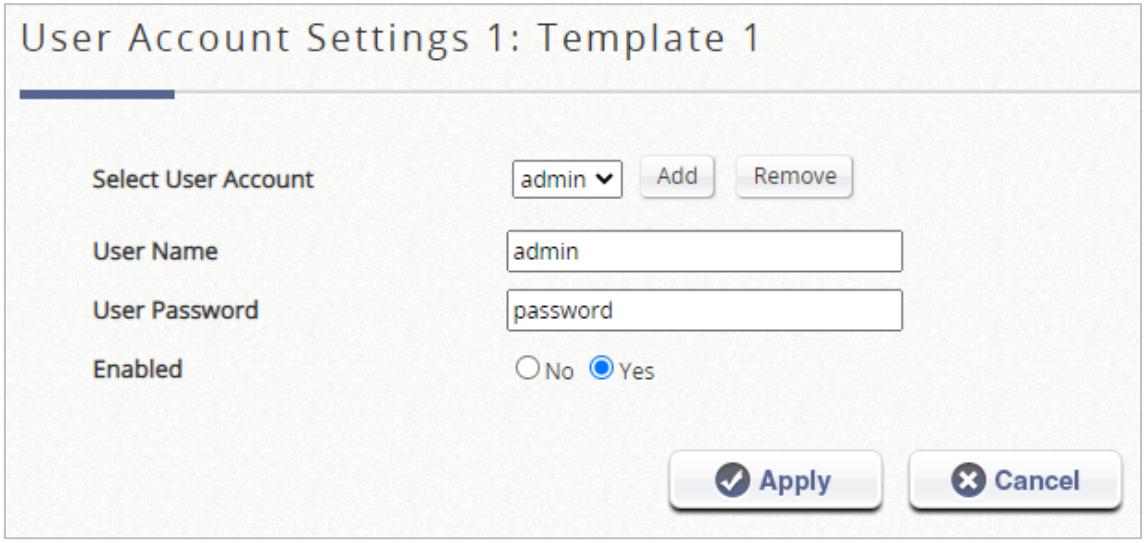

図 3-17 管理者パスワード設定画面

3.4 テンプレートの適用

作成したテンプレートを、アクセスポイントに適用します。

(1) 「DEVICE」－「ワイドエリア管理」－「AP リスト」をクリックします。

(2) 設定を適用したいアクセスポイントにチェックを入れ、「テンプレート適用」をクリックします。

図 3-18 AP リスト

(3) 設定適用画面が表示されますので、テンプレートを選択し「Apply」をクリックします。

図 3-19 設定適用画面

(4) AP リストで自動更新を選択すると、AP のステータスが定期的に更新されます。

図 3-20 AP リスト

(5) ステータスが Online になると、テンプレートの適用は完了です。最低限の設定はこちらで完了となります。

4. CAPWAP トンネルの有効化

AP に設定を適用するだけであれば、CAPWAP トンネルは必要ありませんが、キャプティブポータル認証など、EWS コントローラでユーザにアクセス制御をかけるには、CAPWAP トンネルを有効化する必要があります。CAPWAP は、EWS コントローラ、AP でそれぞれ設定を有効化する必要があります。

4.1 EWS コントローラで CAPWAP 有効化

(1) EWS コントローラで CAPWAP を有効にするには、「DEVICE」－「ワイドエリア AP 管理」で「Enter」をクリックし、「CAPWAP」をクリックします。

図 4-1 CAPWAP のメニュー

(2) CAPWAP 設定画面が開きますので、CAPWAP ステータスで「有効」を選択します。
その他の設定は変更の必要はありません。ページ下部の「Apply」をクリックします。

図 4-2 CAPWAP 設定画面

(3) 画面上部のメッセージ内の「再起動」をクリックし、設定を適用します。

図 4-3 再起動メッセージ

4.2 アクセスポイントで CAPWAP の有効化

(1) アクセスポイントで CAPWAP を有効化します。

EAP101、102 は、アクセスポイントの設定画面より、サービスをクリックします。

図 4-4 アクセスポイントのサービスメニュー

(2) Edgecore Networks EWS-Series Controller のラインの「system settings」の文字をクリックします。

図 4-5 サービス画面

(3) 管理設定画面にて設定を行います。

「管理」にて、「EWS-Series Controller」を選択します。

「CAPWAP」にて「ON」を選択します。

「手動設定による探索」 にて「ON」を選択します。

「AC アドレス」に EWS コントローラの IP アドレスを入力します。

「保存&適用」を押し、設定を適用します。

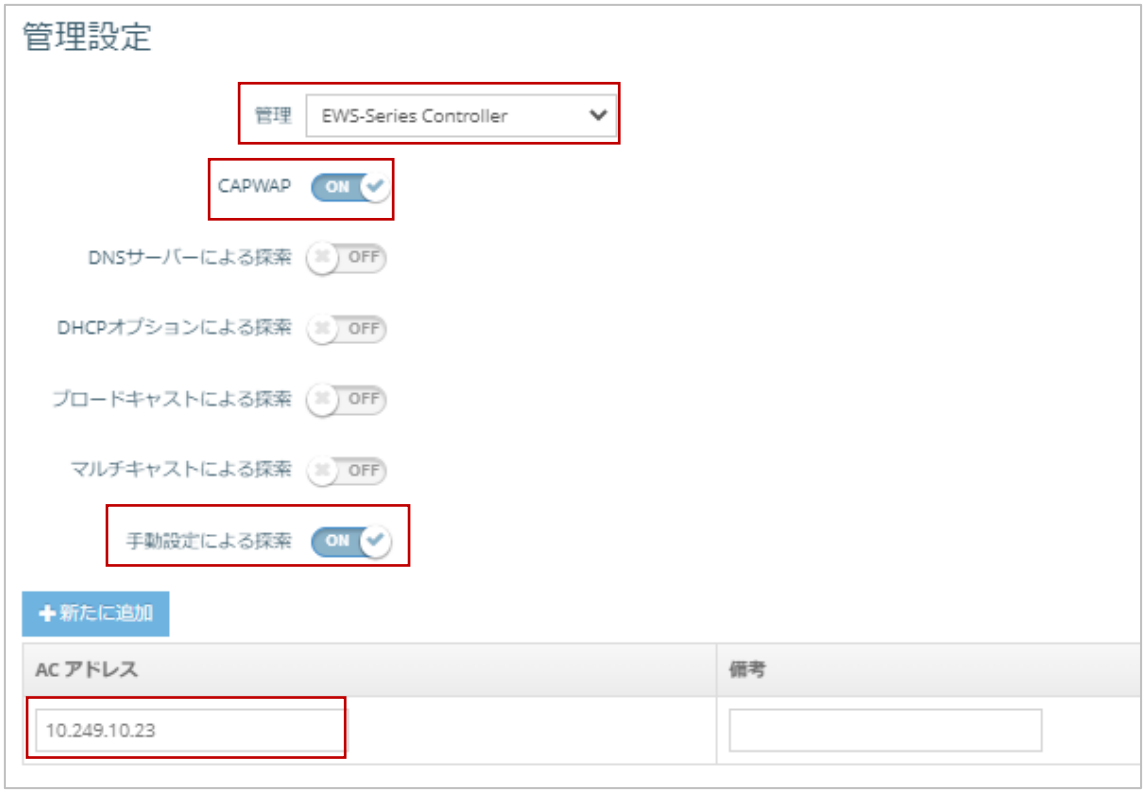

図 4-6 管理設定画面

(4) ECW5211-L の場合は、アクセスポイントの設定画面より、「System」-「CAPWAP」をクリックします。

「CAPWAP」にて「有効」を選択します。

「手動に設定による探索」にて、「有効」を選択します。

「アクセスコントローラーの IP アドレス」に、EWS コントローラの IP アドレスを入力します。

「保存」をクリックします。

図 4-7 CAPWAP 設定画面

(5)「適用」をクリックし、設定を有効化します。

図 4-7 CAPWAP 設定画面上の適用メニュー

(6) CAPWAP が有効されたかを確認するには、AP リストにて確認します。

EAP101、102 では、「CAPWAP」が「RUN」と表示されています。

ECW5211-L では、「CAPWAP」が「RUN」と表示されています。

	機種	AP名	IP	MAC	マップ	テンプレート	ステータス	ユーザ数	トンネル	AP管理ウェブ	CAPWAP	AP Ver.	シリア
☐	EAP102(JP)	EAP102	10.249.234.223	F8:8E:A1:4E:21:F8	Overview	1	Online	0	N/A	Go	RUN	12.3.0-862	EC212
☐	ECW5211-L	ECW5211-L	10.249.10.7	04:F8:F8:1D:C8:79	Overview	1	Online	0	編集	システム概要 Go	RUN	3.45.0010	EC202

図 4-8 AP リスト

5. キャプティブポータル認証の有効化

5.1 サービスゾーンで認証の有効化

CAPWAP が有効化されると、サービスゾーンごとに各種セキュリティを設定することが可能です。デフォルトのサービスゾーンにて、キャプティブポータル認証を有効化する方法についてご説明します。

(1) 「SYSTEM」- 「サービスゾーン」にて、サービスゾーン名「Default」をクリックし、サービスゾーン設定ページに移動します。

図 5-1 サービスゾーン設定画面

(2) サービスゾーン設定ページにて、認証の設定の部分までスクロールダウンします。
「認証」にて「有効」をクリックします。
ポータル URL は認証後に表示するデフォルトページを設定できます。
ここでは「なし」を選択します。

図 5-2 サービスゾーン設定ページの認証の設定メニュー

(3) 認証オプションでは、認証でデータベースを選択します。EWS コントローラのローカルデータベースを使用するには、LOCAL を選択し、有効をチェックし、「Apply」をクリックします。

図 5-3 認証オプション

5.2 ローカルデータベースにアカウント登録

ローカルデータベースに、ユーザ ID とパスワードを登録します。

(1) 「USERS」-「内部認証」-「ローカル」をクリックし、ローカル認証へ移動します。

図 5-4 ローカルのメニュー

(2) ローカルユーザリストで「設定」をクリックし、ローカルユーザリストのページに移動します。

図 5-5 ローカルユーザリストのメニュー

(3) 「追加」をクリックし、ユーザ ID とパスワードを入力し、パージ下部の「Apply」をクリックします。

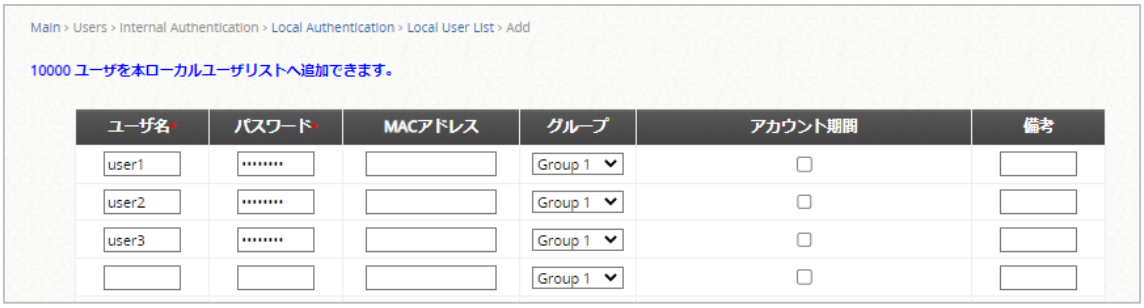

図 5-6 ローカルユーザリスト

5.3 テンプレートでサービスゾーンの適用

SSID にサービスゾーンを紐付けることで、SSID に接続したユーザは、サービスゾーンの設定が適用されることになります。SSID にサービスゾーンを紐付けるには、テンプレートで行います。「3.3 テンプレートの作成」の章で作成した、テンプレートをもとに設定変更します。

(1) テンプレートの「無線ネットワーク」で「設定」をクリックし、無線ネットワーク設定のページに移動します。

図 5-7 認証オプション

(2) CAPWAP トンネルインターフェースで「スプリットトンネル」を選択します。
サービスゾーンで、SSID に紐付けたいサービスゾーンを選択します。
Radius アカウンティングの暫定間隔は、600 を指定します。

図 5-8 無線ネットワーク設定

(3) 「3.3 テンプレートの適用」章の手順で、再度テンプレートを適用します。
適用後、EAP101、102 では、「CAPWAP」が「RUN」と表示され、「トンネル」が「N/A」と表示されます。
ECW5211-L では、「CAPWAP」が「RUN」と表示され、「トンネル」の「編集」がアクティブ化されます。ステータスが「Online」となるとトンネルが有効化されています。

図 5-9 AP リスト

(4) トンネル有効化後、認証を有効化した SSID にアクセスすると、以下のような認証画面が表示されます。

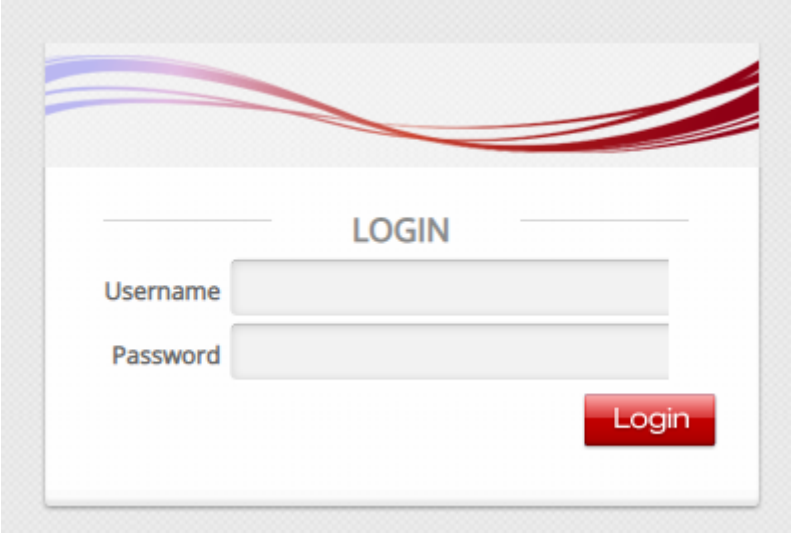

図 5-10 キャプティブポータルの画面

6. EWS コントローラを利用したアクセスポイントの管理方法

EWS コントローラを利用したアクセスポイントの管理方法には、ワイドエリア AP 管理とローカルエリア AP 管理の 2 つがあります。2 つの管理方法の違いは、管理できるアクセスポイントのアドレス体系です。

6.1 ワイドエリア AP 管理のネットワークアドレス構成

ワイドエリア AP 管理で管理できるアクセスポイントは、EWS コントローラの WAN ポートから IP 通信が可能なアクセスポイントです。

ワイドエリア AP 管理では、IP セグメント外のアクセスポイントと通信する場合、WAN ポートのデフォルトゲートウェイ経由で通信を行いますが、WAN ポートから IP リーチャブルであれば、管理対象となります。ワイドエリア AP 管理することをお勧めします。

図 6-1 EWS コントローラ WAN ポートの設定例

6.2 ローカルエリア AP 管理のネットワークアドレス構成

ローカルエリア AP 管理で管理できるアクセスポイントは、EWS コントローラの LAN ポートから IP 通信が可能なアクセスポイントです。

ローカルエリア AP 管理では、デフォルトゲートウェイが指定できないので、LAN ポートからアクセス可能な IP セグメント内のアクセスポイントが管理対象です。

EWS コントローラの LAN ポートには、固有の IP アドレスを割り当てられず、その代わり、EWS コントローラのサービスゾーンの IP アドレスで通信を行います。

図 6-2 EWS コントローラ サービスゾーンの設定例

7. EWS コントローラの RADIUS 機能について

EWS コントローラは、802.1X の RADIUS サーバーとして動作することが可能です。EWS コントローラで、802.1X の RADIUS サーバーの設定方法を解説します。

7.1 EWS コントローラの設定

7.1.1 802.1X 認証の有効化

(1) 「USERS」→「内部認証」→「ローカル」でローカル認証のページを開きます。
「802.1X 認証」で「有効」を選択し、「Apply」をクリックします。

図 7-1 EWS コントローラ ローカル認証の設定画面

7.1.2 RADIUS クライアントの設定

(1) ローカル認証のページで、「RADIUS クライアントデバイスの設定」ボタンをクリックし、RADIUS クライアントデバイスの設定メニューへ移動します。
(2) 「タイプ」を「802.1X」を選択します。
(3) 「IP アドレス」にアクセスポイントの IP アドレスが包括されるアドレスレンジを指定します。
(4) 「サブネットマスク」にアクセスポイントの IP アドレスが包括されるアドレスレンジのサブネットマスクを選択します。
(5) 秘密鍵に、アクセスポイントと共通の秘密鍵を設定します。
(6) 「Apply」をクリックします。

図 7-2 EWS コントローラ RADIUS クライアントデバイスの設定例

7.1.3 デフォルト認証サーバーの設定

(1) 続いて、802.1X 認証設定メニューにて、「デフォルト認証サーバー」で Server1(ポストフィックス:local)を選択します。

(2) 「Apply」をクリックします。

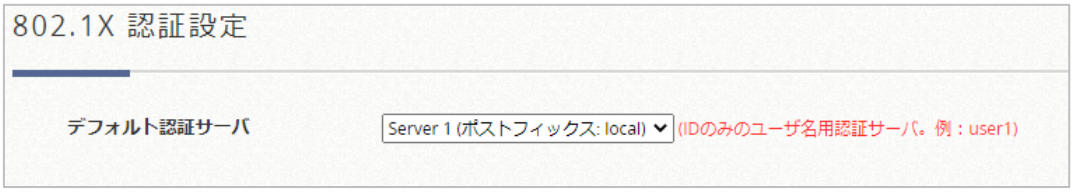

図 7-3 EWS コントローラ 802.1X 認証設定画面

7.1.4 ユーザ ID とパスワードの設定

(1) ローカル認証のページにて「ローカルユーザリスト」の設定ボタンをクリックし、ローカルユーザリストのページへ移動します。

(2) 「追加」をクリックします。

(3) 「ユーザ名」に、ユーザ ID を入力します。

(4) 「パスワード」に、パスワードを入力します。

(5) 「Apply」をクリックします。

図 7-4 EWS コントローラ ローカルユーザリストの設定画面

7.1.5 Session-Timeout の設定

(1) 「USERS」-「追加コントロール」をクリックします。

図 7-5 追加コントロールのメニュー

(2) 内蔵 RADIUS サーバ設定メニューにて、「セッションタイムアウト」時間を設定し、最後に Apply ボタンをクリックします。
セッションタイムアウトを指定しないと、セッションが残ってしまい、最大セッション数に達してしまう可能性があります。

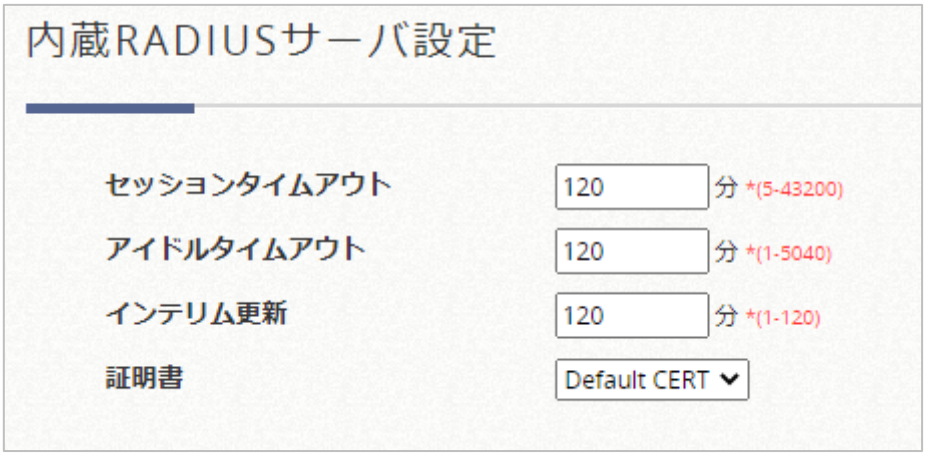

図 7-6 内蔵 RADIUS サーバ設定例

7.2 テンプレートでのアクセスポイント設定（CAPWAP トンネル無効時）

7.2.1 Wi-Fi5 機器での設定

(1) EWS コントローラのテンプレート AP 設定ページの「機種を選択」で「Legacy」を選択します。

(2) 「VAP 設定」の「設定」ボタンをクリックし、「CAPWAP トンネルインターフェース」で「無効」を選択し、「Apply」をクリックします。

図 7-6 VAP 設定例

(3) テンプレート AP 設定ページの「セキュリティ設定」の「設定」ボタンをクリックします。

「セキュリティタイプ」で「WPA-Enterprise」を選択します。

暗号スイートで「WPA2」を選択します。

「プライマリ RADIUS サーバー」で、「ホスト」に EWS コントローラの IP アドレスを入力します。

「認証ポート」に「1812」を入力します。

「認証鍵」に、EWS コントローラと共通の認証鍵を入力し、「Apply」をクリックします。

図 7-7 セキュリティ設定例

7.2.2 Wi-Fi6 機器での設定

(1) EWS コントローラのテンプレート AP 設定ページの「機種を選択」で「New Generation」を選択します。

(2) 「無線ネットワーク」の「設定」ボタンをクリックし、無線ネットワーク設定ページに移動します。

「セキュリティタイプ」で「WPA2-EAP」を選択します。

「RADIUS 認証サーバー」に EWS コントローラの IP アドレスを入力します。

「RADIUS 認証ポート」に「1812」を入力します。

「RADIUS 認証秘密鍵」に、EWS コントローラと共通の認証鍵を入力します。

「CAPWAP トンネルインターフェース」で「無効」を選択し、

「Apply」をクリックします。

図 7-8 無線ネットワーク設定例

7.3 アクセスポイントの設定（スプリットトンネル有効時）

7.3.1 Wi-Fi5 機器での設定

(1) EWS コントローラのテンプレート AP 設定ページの「機種を選択」で「Legacy」を選択します。

(2)「VAP 設定」の「設定」ボタンをクリックし、「CAPWAP トンネルインターフェース」で「スプリットトンネル」を選択し、「Apply」をクリックします。

図 7-9 VAP 設定例

(3) テンプレート AP 設定ページの「セキュリティ設定」の「設定」ボタンをクリックし、セキュリティ設定ページに移動します。

「セキュリティタイプ」で「WPA-Enterprise」を選択します。

「暗号スイート」で「WPA2」を選択し、「Apply」をクリックします。

スプリットトンネル有効にすると、802.1X の RADIUS サーバーの設定が非表示となります。RADIUS サーバーの IP アドレス、認証ポート、秘密鍵の入力の必要はなく、RADIUS サーバーは EWS コントローラとなります。

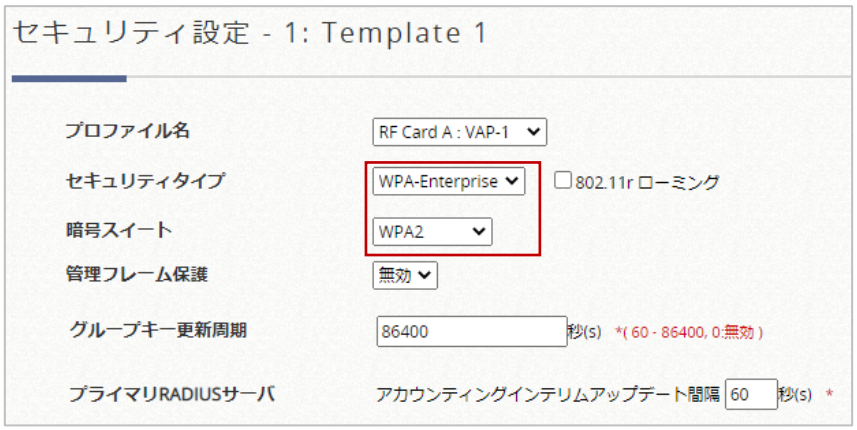

図 7-10 セキュリティ設定例

7.3.2 Wi-Fi6 機器での設定

(1) EWS コントローラのテンプレート AP 設定ページの「機種を選択」で「New Generation」を選択します。

(2) 「無線ネットワーク」で「設定」ボタンをクリックします。

(3) 「CAPWAP トンネルインターフェース」で「無効」を選択します。

「セキュリティタイプ」で「WPA2-EAP」を選選択し、「Apply」をクリックします。

スプリットトンネル有効にすると、802.1X の RADIUS サーバーの設定が非表示となります。RADIUS サーバーの IP アドレス、認証ポート、秘密鍵の入力の必要はなく、RADIUS サーバーは EWS コントローラとなります。

図 7-11 無線ネットワーク設定例

7.4 アクセスポイントの設定（コンプリートトンネル有効時）

7.4.1 Wi-Fi5 機器での設定

(1) EWS コントローラのテンプレート AP 設定ページの「機種を選択」で「Legacy」を選択します。

(2)「VAP 設定」の「設定」ボタンをクリックし、「CAPWAP トンネルインターフェース」で「コンプリートトンネル」を選択し、Apply をクリックします。

図 7-12 VAP 設定例

(3) 「セキュリティ設定」の「設定」ボタンをクリックし、セキュリティ設定のページに移動します。

「セキュリティタイプ」で「WPA-Enterprise」を選択します。

暗号スイートで「WPA2」を選択します。

「プライマリ RADIUS サーバー」で、「ホスト」に EWS コントローラの IP アドレスを入力。

「認証ポート」に「1812」を入力します。

「認証鍵」に、EWS コントローラと共通の認証鍵を入力し、「Apply」をクリックします。

図 7-13 セキュリティ設定例

7.4.2 Wi-Fi6 機器での設定

(1) EWS コントローラのテンプレート AP 設定ページの「機種を選択」で「New Generation」を選択します。

(2) 「無線ネットワーク」の「設定」ボタンをクリックし、無線ネットワーク設定のページに移動します。

(3) 「セキュリティタイプ」で「WPA2-EAP」を選択します。
「RADIUS 認証サーバー」に EWS コントローラの IP アドレスを入力します。
「RADIUS 認証ポート」に「1812」を入力します。
「RADIUS 認証秘密鍵」に、EWS コントローラと共通の認証鍵を入力します。
「CAPWAP トンネルインターフェース」で「コンプリートトンネル」を選択し「Apply」をクリックします。

図 7-14 無線ネットワーク

7.5 仕様上の留意点

EWS コントローラを 802.1X の RADIUS サーバーとして動作させる場合、一般的な RADIUS サーバーと比べ機能が限定されています。エンタープライズ環境で使用する場合には、外部 RADIUS サーバーを別途用意することを推奨いたします。

機能が限定されている点は以下となります。

(1) 認証ログに認証結果の詳細が表示されません。
(2) Accounting, Authorization の機能がありません。
(3) 冗長化(EWS5203 のみ対応)の動作が一般的な RADIUS サーバーとは異なります。
一般的な RADIUS サーバーの冗長構成は、Active-Active となりますが、Edgecore 社 EWS コントローラの冗長構成(EWS5203 のみ対応)は、Active-Standby となります。アクセスポイント側から見ると、RADIUS サーバーは 1 台となり、アクセスポイントには、Backup RADIUS サーバーを指定できません。EWS コントローラ故障時の冗長化の切り替えは、EWS コントローラの HA の機能に依存します。
(4) ログアウトがないため、Session-Timeout を設定しないと、セッションが最大となる可能性があります。

8. EWS コントローラの LED の説明

8.1 EWS101

EWS101 のフロントパネルの構成を図 8-1 に、リアパネルの構成を図 8-2 に、LED 表示を表 8-1 に記載します。

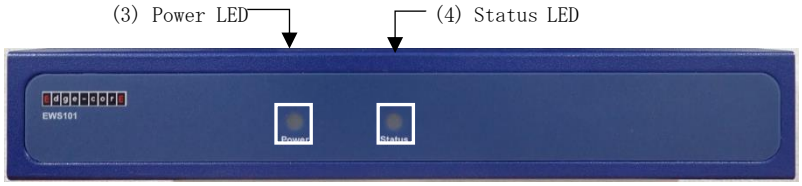

図 8-1 EWS101 フロントパネル構成

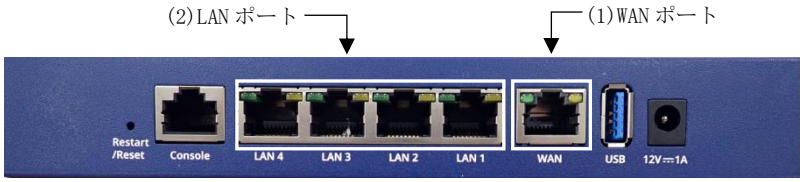

図 8-2 EWS101 リアパネル構成

表 8-1 EWS101 LED 表示

No	パネル表示	名称	左右LED	ステータス	説明
1	WAN	WAN ポート	左	緑点灯	データを送受信していない状態
			左	緑点滅	データを送受信している状態
			左	消灯	リンクが切断された状態
			右	緑	1Gbit/s 点灯でリンクが確立した状態
			右	橙点灯	100M・10Mbit/s でリンクが確立した状態
			右	消灯	リンクが切断された状態
2	LAN1～4	LAN ポート	左	緑点灯	データを送受信していない状態
			左	緑点滅	データを送受信している状態
			左	消灯	リンクが切断された状態
			右	緑点灯	1Gbit/s でリンクが確立した状態
			右	橙点灯	100M・10Mbit/s でリンクが確立した状態
			右	消灯	リンクが切断された状態
3	Power	Power LED	-	緑点灯	電源が供給されている状態
			-	消灯	電源が供給されていない状態
4	Status	Status LED	-	橙点灯	システムが起動後の状態
			-	橙点滅	システムが起動途中の状態

8.2 EWS503

EWS5203 のフロントパネルの構成を図 8-3 に、フロントパネルの LED 表示を表 8-2 に記載します。

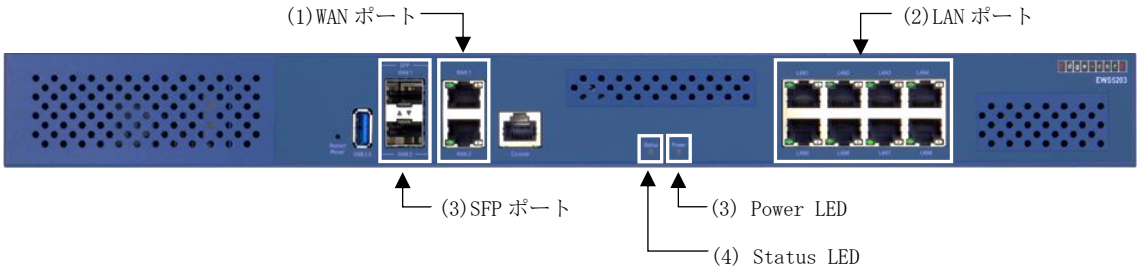

図 8-3 EWS5203 フロントパネル構成

表 8-2 EWS5203 フロントパネル LED 表示

No	パネル表示	名称	左右LED	ステータス	説明
1	WAN1～2	WAN ポート	左	緑点灯	データを送受信していない状態
			左	緑点滅	データを送受信している状態
			左	消灯	リンクが切断された状態
			右	緑点灯	1Gbit/s でリンクが確立した状態
			右	橙点灯	100Mbit/s でリンクが確立した状態
			右	消灯	10Mbit/s でリンクが確立した状態
2	LAN1～6	LAN ポート	左	緑点灯	データを送受信していない状態
			左	緑点滅	データを送受信している状態
			左	消灯	リンクが切断された状態
			右	緑点灯	1Gbit/s でリンクが確立した状態
			右	橙点灯	100Mbit/s でリンクが確立した状態
			右	消灯	10Mbit/s でリンクが確立した状態
3	SFP・WAN１～2	SFP ポート	-	緑点灯	データを送受信していない状態
			-	緑点滅	データを送受信している状態
			-	消灯	リンクが切断された状態
4	Power	Power LED	-	緑点灯	電源が供給されている状態
			-	消灯	電源が供給されていない状態
5	Status	Status LED	-	青点灯	内部ストレージの読み書きが行われている状態
			-	青点滅	起動途中及び、内部ストレージの読み書きが行われていない状態

Edgecore Networks 社 EWS コントローラ
コンフィグレーションガイド

2023 年 2 月 初版

APRESIA Systems 株式会社
東京都中央区築地二丁目 3 番 4 号
築地第一長岡ビル 8 階
https://www.apresiasystems.co.jp/